

敬老会



9月16日、第41回芳生苑敬老会を開催いたしました。今年は大樹6名、白寿4名、米寿3名、喜寿2名、計15名の方々がお祝いを受けられ、町長からお祝い金目録と、家族会会長から記念品がご利用者様一人ひとりに贈呈されました。

白色、黄色、紫色の年祝いの色のちゃんちゃんこを着て、ご長寿をご家族と参加者、皆で祝いました。

また、式典の後はボランティアの皆さんや職員によるアトラクションが行われ、歌や踊りで楽しいひと時を過ごしました。

敬老会に先立ち、家族会の役員会と総会を開催致しました。平成28年度事業と収支決算、平成29年事業計画等について、報告を行っております。

全職員が共に育っていく事ができる環境作りを整えると共に専門的知識や技術を習得向上できる目的で外部研修にも積極的に参加し、意識統一を図るよう内部研修も実施している内容を報告させていただきました。

おめでとうございます



ハロウィンかぼちゃ彫り

ハロウィンにかぼちゃのランタン作りをしました。お化けかぼちゃに目や口を書き入れて素敵な顔のお化けかぼちゃが完成しました☆

ツリー飾り付け



文化祭作品作り

文化祭の出展に向けて作品づくり！習字、貼り絵、編み物など素敵な作品が出来ました♪

ペタペタ

すらすら

文化祭 作品展見学



10月27日、恵みのホールへ文化祭作品展を見学に行きました。会場に飾られている作品を見て「これ、私が作ったのだねえ♪」と嬉しそうにお話され、楽しそうに作品を眺めておられました。



見事だな～



自分の作品
あった!!!

秋の運動会

10月29日、西棟Cユニットの恒例行事「秋のちっちゃな運動会」を開催しました。絵合わせ競技や福笑い合戦など、4種目の競技が行われ、「よーいドン！」の掛け声と同時に「ガンバレガンバレ！」と歓声があがり会場は大盛り上がりでした。



苑での暮らし

歓迎会

誕生日 ホットケーキ作り

土別へ買い物



歓迎会

出前

晩酌



収穫した枝豆で、
ずんだもちを作りました!!(^^)たくさん
作り皆でおいしくい
ただきました☆



おいしい♡



和寒小学校
福祉教育実践



9月22日と11月2日、和寒小学校3年生児童が訪問され、福祉の職場見学や、利用者さんと一緒に作品づくりをしました。とても朗らかな表情で楽しまれていました。



保育所 慰問



11月7日、保育所の年長組の子供たちが芳生苑に訪問され、利用者さんはかわいらしい歌やお遊戯を見て、ニコニコと嬉しそうな顔をされていました。



ハロウィン慰問



9月30日、ハロウィンの仮装をした子ども達が遊びに来てくれました。



ボランティア・慰問

- ・更生保護女性会慰問
- ・草花の会
- ・喫茶ボランティア

- ・抹茶ボランティア
- ・明光寺婦人会
- ・文化祭作品展

ありがとうございました



認知症カフェ

10月12日に芳生苑の食堂にて、地域・家庭において介護の悩みを抱える方々を対象に、和寒町地域包括センター主催の認知症カフェが開催されました。

社協山田事務局長の体験談や、日ごろの悩み・疑問について、コーヒーなどを飲みながら話されました。



ケアカフェ

11月30日に、「わっさむのケアカフェ」がデイサービスセンター健楽苑を会場に開催されました。

町内の介護事業所や薬局、和寒町地域包括支援センター等100名近くの看護介護従事者の方が集まり、日本医療大学准教授大堀具視先生の「動き出しは当事者から」の研修を受けました。

他事業所の方達との交流を図りながら、ご利用者様の動き出しをサポートする介護技術の基礎を学びました。



インフルエンザ・ノロウイルスに注意！

インフルエンザやノロウイルス（感染性胃腸炎）が流行する時期となりました。芳生苑でも職員にインフルエンザ予防接種を義務付けており、ご利用者様は11月15日と16日の2日間で予防接種を受けていただきました。予防接種だけでは流行は防ぐ事はできません。

しっかりと手洗い、マスクの着用、バランスのとれた食事、十分な睡眠をとり、感染予防をしていく事が大切です。玄関にアルコール消毒・マスクを設置しておりますので、来苑された際には手指消毒にご協力ください。

また、症状（咳・鼻水・発熱・下痢・嘔吐）のある方は、面会を控えていただきますよう、よろしくお願いいたします。

認知症サポーター養成講座



11月22日、24日に認知症サポーター養成講座を開催いたしました。

健楽苑村岡施設長から、認知症の研修を受け、終了後には認知症サポーターの証であるオレンジリングを受け取りました。

職員研修会

11月21日に、日本医療大学准教授大堀具視先生をお招きし、介護技術の現場指導を行っていただきました。

職員主体ではない、ご利用者様の意思を尊重した「動き出しは当事者から」の介護技術を学び、ご利用者様のいきいきとした動きや表情が見られ、ご本人主体の介護技術の大切さを再認識いたしました。

